

オーストラリア語学研修報告書



令和6年度

愛知県立西尾高等学校

目次

西尾高校海外研修事業概要	2
西尾高校 オーストラリア語学研修	3
引率者レポート	6
生徒レポート	8

西尾高校海外研修事業概要

平成 25 年度に、政府（外務省）が推進する北米地域との青少年交流の一環として、“KAKEHASHI Project - The Bridge for Tomorrow”が実施されました。本校はこのプロジェクトに参加し、そのプログラムの中の 1 つである学校交流を通じて、アメリカ・ニューヨーク市にある East-West School of International Studies（EW 校）と交流を深めました。両校が今後、姉妹校のような関係を築き、英語あるいは日本語を意欲的に学んでいる高校生たちに現地訪問や文化体験の機会を与えることを目指し、両校間の交流を続けていくことを検討しました。平成 26 年度に初めて、本校と EW 校が相互に生徒を派遣する形で独自の交流プログラムを実施しました。平成 28 年 7 月には EW 校生が来校し、12 月には本校生徒が EW 校を訪問しました。その後、平成 30 年度にも本校生徒が EW 校を訪問しました。こうしたアメリカへの海外研修を行う中で、本校にとってよりよい海外研修の在り方を模索することになりました。

アメリカ研修は、12 月の 2 学期間中に生徒 10 名程度が参加する現地校訪問と市内研修からなるものでしたが、長期休業中により多くの生徒が英語の上達を目指すプログラムを考えました。その結果、令和元年度にオーストラリア語学研修を立ち上げることとなりました。オーストラリアは日本とは季節が反対のため、日本が夏季休業中でも学校の授業が実施されています。また、ブリスベンは冬でも温暖で過ごしやすい地域です。また、オーストラリアは多民族国家であり、豊かな自然環境と独特な動植物が存在し、地歴・理科の面においても学ぶ点が多くあります。プログラムの中心は、ホームステイをしながら本校生徒のための英語研修と現地校の授業に参加するため、英語力向上に取り組めます。そのような魅力的なプログラムゆえに、派遣生徒数も 25 名に増加しました。

しかしながら、令和元年度末には新型コロナウイルス感染症による世界的なパンデミックが起きました。臨時休校、マスク着用、ワクチン接種・・・日常が一変しました。オンライン交流や国内研修等の代替活動で国際交流を続けていましたが、実際に現地で交流をしたいという思いは強まりました。そして昨年度、コロナが落ち着いたことで、ワクチン接種などの条件はあったものの、4 年ぶりのオーストラリア語学研修を実現することができました。今年度はコロナによる制限はなくなりましたが、猛烈な雨をもたらした台風 7 号の影響で、飛行機の欠航や遅延が発生し、一日遅れでスタートしました。

オーストラリア語学研修

8月16日から25日にかけて、1・2年生の生徒25名と引率教諭2名がオーストラリアを訪れました。台風7号の影響で、前日に中部国際空港から成田国際空港までの午後の便の欠航が決まり、急遽中部国際空港出発を早朝の便へ変更しましたが、成田国際空港からブリスベン空港行きの便が翌日の出発に変更され、成田国際空港周辺で宿泊することになりました。ブリスベン空港には夜に到着したため、すぐにホームステイが始まりました。もともと初日に予定されていたブリスベン観光は、最終日に実施されました。生徒たちは現地校のBrisbane Christian Collegeに通い、西尾高校の生徒のための英語の授業や現地校の生徒と共に授業を受けました。また、校外研修として、グリフィス大学、サーファーズパラダイス、カランビン・ワイルドライフ自然保護区を訪れました。

<派遣団> 1年生18名、2年生7名、引率教諭2名 計27名

〈日程〉変更前

日次	月日	地名	時間	交通機関	内容	食事		
						朝	昼	夕
1	8/16 (金)	中部国際空港 中部国際空港発 成田空港着 成田空港発	12:30 14:40 16:00 20:30	JL3084 QF62	受付・搭乗手続きを行います 空路、成田空港へ 到着後、出国手続きを行い、国際線へ乗り換え 空路、ブリスベンへ (機内泊)	-	-	機内
2	8/17 (土)	ブリスベン着 ブリスベン発 研修地	7:25 午前 午後	専用車	到着後、入国手続きを行います 現地スタッフと会い、専用車にて市内見学へ サウスバンク、クイーンズランド博物館など(昼食付) ホストファミリーと対面、ホームステイ開始 (ホームステイ)	機内	○	○
3	8/18 (日)	研修地	終日		ホストファミリーと過ごします (ホームステイ)	○	○	○
4	8/19 (月)	研修地	午前 午後		【現地校】 スクールツアー、オリエンテーション 英語クラス 現地校生徒と交流 (ホームステイ)	○	○	○
5	8/20 (火)	研修地	午前 午後		英語クラス 現地校生徒と交流 (ホームステイ)	○	○	○
6	8/21 (水)	研修地	終日	専用車	現地大学: Griffith University Gold Coast campus キャンパスツアーと大学生と交流 サーファーズパラダイス カラピンワイルドライフサンクチュアリー (ホームステイ)	○	○	○
7	8/22 (木)	研修地	午前 午後		英語クラス 現地校生徒と交流 (ホームステイ)	○	○	○
8	8/23 (金)	研修地	午前 午後		英語クラス 現地校生徒と交流、フェアウェルパーティー (ホームステイ)	○	○	○
9	8/24 (土)	研修地 研修地発 ブリスベン空港着 ブリスベン空港発 シドニー空港着 シドニー空港発	午前 午後 16:10 17:45 20:55	専用車 QF541 QF25	ホストファミリーと過ごします 荷物を持って集合、現地スタッフと専用車にて空港へ 空港到着後、搭乗手続き 空路、シドニーへ 到着後、出国手続きを行い次便に乗り継ぎます 空路、羽田空港へ向かいます (機内泊)	○	-	機内
10	8/25 (日)	羽田空港着 羽田空港発 品川駅着 品川駅発 名古屋駅着	5:55 8:15頃 8:30頃 9:00頃 11:00頃	在来線 新幹線	到着後、入国手続き 京急空港線でJR品川駅へ 到着後、乗り換え JRのぞみ新幹線で名古屋駅へ 到着後、解散 お疲れ様でした!	機内	-	-

変更後

1	8/16 (金)	中部国際空港発	8:20	JL3082	
		成田空港着	9:30		→ホテル泊
2	8/17 (土)	成田空港発	9:15	QF62	
		ブリスベン空港着	18:15		→現地校前でホストファミリーと対面
9	8/24 (土)	サウスバンク 見学	午前	専用車	→昼食後ブリスベン空港へ

〈全日程〉

- 3月13日(水) 国際交流説明会
- 3月21日(木) 合格者登校日にて、新入生・保護者に説明
- 4月19日(金) 国際交流プログラム説明会(ISAより) 申込・選考課題配布
- 5月7日(火) 選考課題提出締切 作文課題：志望動機(日本語+英語)
- 5月22日(水) 生徒へ選考結果の連絡
- 5月24日(金) 第1回派遣生徒保護者説明会
・引率教諭紹介 ・旅程等の説明(ISAより) ・関係書類の配布(ISAより)
- 5月27日(月) 事前指導
- 6月3日(月) 関係書類提出締切
- 6月10日(月) ・オーストラリアを舞台にした英語ドラマ鑑賞
～7月31日(水) ・英語教員やALTとの会話練習
・オーストラリアに関する調べ学習およびプレゼンテーション
・地歴教員による講義
- 7月5日(金) ホームステイオリエンテーション(ISAより)
- 8月5日(月) 第2回派遣生徒保護者説明会
・同窓会奨学財団より奨学金贈呈 ・旅の準備について(ISAより)
- 8月16日(金) オーストラリア語学研修参加
～8月25日(日)
- 8月28日(水) 生徒報告書提出
- 10月 代表生徒4名、国際交流プログラム報告会の発表準備開始
- 11月11日(月) 国際交流プログラム報告会でのプレゼンテーション

感謝

引率教諭 平井 友紀子

海外研修の引率はこれで3回目となる。渡航経験もそれなりにあり、トラブルもある程度経験してきた。しかし個人の旅行と違って生徒引率は、当たり前だが、生徒に万一のことがあってはならない。そのためすぐに対応ができるように計画には万全を期していた。

しかし、今回の台風7号による影響は、私の想像をはるかに超えていた。それでも乗り越えることができたのは、一重にこの研修を成功させようとしてきた多くの方々の協力のおかげである。

予定では、8月16日14時40分に国内線で中部国際空港から成田空港に向かい、国際線に乗り換え20時30分に成田からブリスベンに向けて日本を出発することになっていた。しかし8月15日早朝、台風7号の影響により航空会社から国内搭乗便の欠航が発表された。なお、国際搭乗便は13時時点で結構の発表が無かったため、成田空港までの移動手段を確保する必要に迫られた。新幹線は既に終日計画運休が発表されており、また手配可能なバス会社も無かったことから、「現在の搭乗券を払い戻し、8月16日の午前便を新たに購入してはどうか」と旅行会社から提案を受けた。

デメリットは差額として追加料金がかかること、集合時間が早朝となること、台風の進路によってはリスケジュールとなった場合に成田泊の可能性を排除できないことであった。集合時間にはみんな間に合うのだろうか、キャンセルを選ぶ家庭も出てくるだろうかと不安になったがすぐに保護者と連絡をとる必要があった。あんしんメールとteamsを利用してながら、確認が取れない家庭には旅行会社と手分けして電話連絡を行った。

17時過ぎ、すべての家庭の確認が終わった。しかしほぼ直後に、会社から翌朝にリスケジュールされたとの知らせが届き、成田の宿泊が決定した。またブリスベンには18時40分着となったために、当初予定されていた半日市内観光がカットされることになった。保護者への2回目の連絡は比較的スムーズにいった。すべてを終えて学校を出たのが19時だったかと記憶している。

この半日で起きたことは、関係者の協力なしには乗り越えられなかった。お盆休みなものにもかかわらず学校に駆けつけたり、相談に乗ったりしてくださった先生方、不可能を可能にすべて塗り替えてくださった旅行会社、めちゃくちゃな要求にもかかわらず渡航前日に対応してくださった保護者の方々、ウェルカムディナーを用意してくれていたホストファミリー、何もかもが初めてにもかかわらず、この研修を成功させようと貪欲にくらいついてきた生徒のみんな、考えれば考えるほどいろいろな方々が思い浮かぶ。末尾になるが、あらためて感謝を申し上げたい。

つながりと発見

引率教諭 馮彩音

昨年度、コロナが収束し、オーストラリア語学研修が再開されることを受けて、海外研修の引率を経験したいと思っていたが叶わなかった。今年こそはと、図書研修部にも所属し、準備段階から関わった。参加生徒が充実した研修ができるよう、日本にいるうちから英語力アップやオーストラリアの知識取得を目指した活動を行った。海外に興味のある生徒が多く、学ぼうとする姿勢が嬉しかった。また、Teams からの指示や提出物等もしっかり守れる安心できる派遣団だと感じた。そして研修初日からその姿勢は発揮された。飛行機の欠航や遅延による大きな変更は、引率教諭も経験したことのない出来事であったが、生徒たちは辛抱強く待機し、大移動を難なくこなすことができた。

初日は夜遅くに到着したため、ホームステイから始まることになった。ホストファミリーの方々が温かく迎えてくださり、生徒たちは笑顔でそれぞれの家へ向かった。現地校では英語で話しかけることに自信をなくしていたが、短い時間を無駄にはしたくないとの思いから、自分を変えようと必死になっていた。現地校生徒たちの自由な振る舞いに感化されたのか、放課になると日本のお菓子を手に教室を飛び出し、現地校生徒の輪に入るために自分の殻を破ろうとしていた。日に日にリスニング力の向上や間違いを恐れずに会話を始められることを実感し、生徒たちの急激な成長にこちらも嬉しかった。

私自身、オーストラリアは初めだったが、以前留学をしていたイギリスと似た点もあり、懐かしさを感じた。例えば、家の作りについて、イギリスでホームステイをした家は一戸建ての大きな建物を左右対称に半分に分け、真ん中の壁のみを隣と共有しているものだった。これを semi-detached house と呼ばれるが、オーストラリアのホストマザーの家も同じ作りで興味深かった。調べてみると、オーストラリアでは duplex house というようだ。

共通点多々あったが、オーストラリアの植物の豊かさには驚かされた。タンクブロメリアとピカクシダが、温室ではなく外で堂々と育っている姿に衝撃を受けた。タンクブロメリアの中央はコップのように水を貯めることができる。温かい時期になると、その水溜まりにカエルがいることがあるとホストマザーから聞いた。あまりの見たさに思わず Google で画像検索してしまった。



外の世界に出ると異なる考えをもつ人々や初めて見るものに出会い、もっと関わりたい、もっと知りたいと気持ちが高まる。研修の 10 日間だけでなく、多様な価値観に触れた後にも、何を考え、どんなことを発信し、次の目標は何かを決める時間を十分にとってほしいと思う。このような経験を蓄積していき、今後の自分の探究心を高めるきっかけになることを期待している。

今まで出来なかった考え方

私は中学生の時に参加した English Camp で、英語を話すことの魅力と多様な価値観に触れ、留学への関心が高まりました。高校ではオーストラリア研修に応募し、実際に多くの経験を積みたいと思いました。この研修を通して学んだことは以下の三つです。

まずは、積極性の大切さです。最初は英語が聞き取れず不安でした。ホストファミリーやバディとの会話で分からないときに聞き返せませんでした。そこで、間違いを恐れずにゆっくり話すように頼んだり、分からない単語を教えてもらったりすることを意識しました。その結果、上手くコミュニケーションをとることができました。だんだんと自分の意思を伝えられるようになってきたのを実感し、嬉しかったです。



次に学んだことは、多様な文化があることです。ホストファミリーの友達のホームパーティーに参加しました。そこには、いろんな国籍の方が集まっていて驚きました。他にも、ホストファミリーと外出した時や、現地校の Brisbane Christian College にもいろんな国籍の方がいました。オーストラリアでは沢山の文化が混ざり合うことで、多様な価値観を身につけられると思いました。これは日本とは異なる点で、新しい発見をすることができました。

最後に学んだ事は、今まで気づけなかった日本の魅力です。オーストラリアのトイレやスーパーの床に物が散らばっていたり、汚かったりしたのを見て、日本の清潔さのありがたみを感じました。日本の学校では、授業の後に生徒が清掃をするのが一般的ですが、オーストラリアでは専属の用務員さんが清掃していました。これも日本の学校が清潔に保たれる理由だと思いました。

この研修を通じて、コミュニケーションや英語力に対する考え方が変わりました。以前は相手の様子を伺って無言になってしまうことが多かったですが、今では何も言わずに後悔することより、自分の考えをしっかりと伝えることが大切だと思いました。また、英語力に関



しては、文法や発音の完璧さよりも、今持っているボキャブラリーで相手にしっかり伝えること、相手の話でわからないことがあれば恥ずかしくがらずに、ちゃんと聞き返して教えてもらうことが一番大切だと考えられるようになりました。この研修は、わたしのこれからの人生において非常に重要な経験だと思います。沢山の人の関わり、多様な価値観を学び、世界の広さを実感できたとても濃い 10 日間でした。

貴重な経験

オーストラリア語学研修の参加募集がかけられた時、最初、私はとても迷っていました。英語は好きで、あまり経験できない貴重なものだと思いますし挑戦したいと思う一方、ホストファミリーとの生活や英語の能力に対する不安もありました。しかし、海外で生活してみても日本と異なる文化や刺激を得たいという思いが強くなり、勇気を出して応募しました。

研修中、ホストファミリーは非常に優しく、心温かく迎え入れてくれました。家族の一員として、自分のことは自分でやり、毎日できるだけ一緒に過ごしました。コミュニケーションを取る中で、英語が分からなかったり聞き取れなかったりした場合には、素直にもう一度聞き直すことやジェスチャーを使って伝えること、YESなのかNOなのかをはっきり言うこと、相手が話したフレーズや単語を復唱することで、うまくコミュニケーションが取れることがわかりました。

現地の学校では、自分のバディと共に学校生活を体験しました。授業は生徒複数人でテーブルを囲み、相談しながら学習をしていました。その方がわからない問題もすぐに解決でき、教える側も理解が深まるので、より充実した授業になると思いました。また、教室移動の際や昼食の時間に会った現地校の生徒はフレンドリーで、目が合うと手を振ってくれたり、日本語で挨拶してくれたりしました。学校外でも、すれ違った人はとても優しく接してくれ、嬉しい気持ちになりました。

休日には、大きなショッピングモールに行きました。そこで改めて、オーストラリアは多国籍の国だなと感じました。様々な国から集まって一つの国で生活している様子を見て、感動しました。また、日本のお店もいくつかあり、「このお店が海外では人気なんだ!」「この食べ物が海外では人気なんだ!」などと日本を俯瞰することができ、とてもおもしろかったです。車での移動中には、ホストファザーが街の紹介をしてくれました。その中でチャイナタウンがありました。このように同じ文化をもつ人がまとまって住む地域もあり、生活がしやすくなるなと思いました。

このオーストラリア語学研修に参加して、毎日が貴重で新しい経験ばかりでした。日本とはライフスタイルや食べ物が大きく異なっていて、それを海外の家族の一員として経験することは、なかなかできることではないと思います。最初は、研修に参加しようか迷っていましたが、参加して本当によかったと感じています。そして、また新たに違う地で真剣に留学してみたいという夢もできました。これからも自分の世界を自分で広げていきたいと思っています。



オーストラリア研修を通して

私はもともと英語に興味があり、英語を使ってコミュニケーションを取ってみたいと思い、オーストラリア語学研修に参加することを決めました。選ばれた時は嬉しいと同時に不安もありました。出発前の準備では、パスポートやビザの取得などでとても忙しかったです。しかし、オーストラリアについて調べるたびに楽しみな気持ちが大きくなり、研修に対する期待が膨らみました。それでも、自分の英語力に自信が持てず、本当に英語で会話ができるのかとても不安でしたが、自分の英語の語彙力を知る良い機会だと思い、頑張ろうと決意しました。

私はこの研修で二つのことを学びました。一つ目は、文化の違いがあっても仲良くなれることです。オーストラリアは多国籍国家で、色々な国の人たちが共存しています。特にサウスバンクにホストファミリーと行った時に、その多様性を肌で感じ、強い印象を受けました。現地の学校でも同様で、文化の違いを超えてお互いを尊重し合い、一緒にスポーツをしたり勉強をしたりすることはとても貴重な経験でした。バディとは日本の学校の違いについて話しました。オーストラリアの放課は、外でスポーツをしたり、ベンチに座っておしゃべりを楽しんだりするそうです。バディバディの英語が聞き取れませんでしたでしたが、ゆっくり喋ってくれたり、わかりやすい英語で喋ってくれたりしてくれて、自分も日本の学校の放課の過ごし方や校則について話すことができました。学校での過ごし方が異なり、文化の違いを実感しました。

二つ目に学んだことは、同じ目標を持つ仲間の大切さです。最初はホストファミリーの言っていることがわからなくてコミュニケーションがうまく取れませんでした。しかし、同じホームステイ先の仲間と協力しながら、自分たちの知識をフル活用して、最終的にはコミュニケーションが取れるようになりました。まだまだ完璧な英語で話せるわけではありませんが、自分たちができることは全力でやり切るという経験は、これから先に良い影響を与えてくれると思います。一緒に授業を受けた仲間たちとも信頼関係を築くことができました。この研修を通してとても貴重な体験をすることができました。



今回の研修では、台風の影響でオーストラリアに無事に行けるか、とても不安でした。しかし、旅行会社の方々の協力と臨機応変な対応のおかげで、無事にオーストラリア語学研修を終えることができました。いろいろな困難がありましたが、この経験を活かして、進路の幅を広げていきたいです。そして、将来は英語を使って活躍し、仲間を大切にできる人になりたいです。

英語の大切さ

僕は受験校を考える際、西尾高校にオーストラリア語学研修があると知り、合格した際には絶対に参加したいと思っていました。僕の母がインドネシアに三年間留学したことがあり、英語が流暢なので、海外留学にとっても興味を持っていた影響も大きいです。今回、台風の影響でオーストラリアに行けるのか不安でしたが、飛行機が飛ぶとわかった時、ますますオーストラリアでの体験が楽しみになりました。

オーストラリアの学校では、日本と違う多くのことを体験しました。特に印象的だったのは「ドラマクラス」という授業です。このクラスでは演技の練習をしたり、劇を二人一組で行ったりしていました。日本の学校ではあまり見かけない授業で新鮮でした。また、「モーニングティー」という文化も印象的でした。これは、午前の授業の半ばに生徒や先生と一緒にお茶や軽いおやつを楽しむ休憩時間のことです。とてもリラックスでき、後半の授業も集中して受けることができました。授業では、紙を使わずにパソコンを使っていました。ほとんどの授業がデジタルで、先生と対話しながら学べるのが面白かったです。そして、「ブックウィーク」というイベントもありました。この週には、生徒たちが好きな本のキャラクターに扮して学校に来ます。とても賑やかで、中には日本のアニメのコスプレをする人もいてワクワクする体験でした。最終日には「ドロップベア」という人狼ゲームに似たゲームをみんなで楽しみました。みんなで協力して「ドロップベア」を見つけ出すゲームで、最高の締めくくりとなりました。こうした日本との違いが、オーストラリアの体験をより特別で楽しいものにしてくれました。

ホームステイでは、60代の夫婦の家庭にお世話になりました。初日にゴールドコーストに連れて行ってもらい、綺麗なビーチや街を案内してくれました。とても優しく、親切な夫婦で、毎晩夕食後にはリビングでおしゃべりを楽しみました。英語での会話は少し難しかったですが、温かい雰囲気の中でたくさんのことを学びました。また、オーストラリアでは水がとても貴重であることを知りました。シャワーの時間は7分、洗濯は週に1回と決められていて、無駄のないように気を付けました。こうした生活の違いもよい経験となりました。



オーストラリアのホームステイで、英語の重要性を強く感じました。ホストファミリーとの会話を通じて、英語で自分の思いを伝えることが難しいと感じましたが、話すことで異文化を理解し、深く交流できると気づきました。英語は世界とのつながりを広げ、より多くの経験を可能にする大切なツールだと実感しました。

自分を変えてくれた 10 日間

僕は西尾高校に入学する前に、このオーストラリア語学研修を知り、ホームページにある昨年の報告書や写真を見て、先輩方の楽しそうな笑顔に心を動かされました。英語は得意ではありませんが、興味があり、また周りに頼ってばかりな自分を変えたいという一心で、この研修に参加することを決めました。

この 10 日間で自分を大きく変える三つの大きな経験がありました。一つ目は、周囲の人との関わりです。オーストラリアに行く前は、知らない人と話すのが苦手で、どう話せばいいかわからずに黙ってしまうことがよくありました。現地ではホストファミリーやオーストラリアの生徒とは英語で話さなければなりませんでしたが、英語は好きでも、うまく話すことが出来ない自分を想像すると不安でしたが、周りの人々は違いました。みんな僕に積極的に話しかけてくれ、心を開くことができました。今ではたくさんの人と冗談を言い合える仲になり、コミュニケーションを取るうちに完璧な英語にこだわらずとも伝えることができることを実感しました。



二つ目は、日常生活です。普段は目覚まし時計だけでは起きられず、母に起こしてもらっていましたが、ホストファミリーとの生活では自分で目覚まし時計のみで起きることができるようになりました。また、普段は家事の手伝いを面倒くさいと思ってやっていませんでしたが、自分から積極的に食器を片付けるなど、気づいて行動できるようになりました。日本に帰国した今でも意識せずにできるようになりました。

三つ目は、ホストファミリーや現地の仲間と過ごした時間です。オーストラリアに滞在したのは約 1 週間でしたが、この短い時間の中でたくさんの思い出ができました。ホストファミリーにゴールドコーストやショッピングセンターに連れて行ってもらったり、現地の学校でバレーをしたり、初めて食べる料理を楽しんだりしました。また、西尾高校の仲間と動物園や美術館、現地の大学など様々な場所に行ったこともありました。この貴重な時間が、今後、時間を有効活用できるようにさせてくれるだろうと感じています。



この 10 日間は、自身の人との関わり方、ダラダラした生活、時間の使いかたを一新させてくれた貴重な経験となりました。この経験を忘れることはなく、将来必ず自分を支えてくれる大きな力になると思います。最後に、この貴重な体験をさせてくれた両親、先生、ISA の方々、仲間、ホストファミリー、そして現地の学校の仲間たちに感謝し、成長した自分を見せられるように努力していきたいと思っています。

未来にいきる貴重な経験

まず始めに、このオーストラリア語学研修に参加できたことを本当にうれしく思っています。今回の研修を通して、素晴らしい経験をすることができました。初めてのホームステイで、すべてが新鮮な体験でした。今回の研修は、台風の影響で例年とは違う形での初日を迎えましたが、イレギュラーな成田での一泊で友人たちとも仲が深まり、楽しい時間を過ごすことができました。さらに、先生方をはじめとしたたくさんの方々のおかげで、無事に研修を終えることができました。本当にありがとうございました。

僕がこのオーストラリア語学研修に参加しようと思ったのは、両親や祖父母の存在が大きかったと思います。海外に足を踏み込んで生活をするとう人生が変わるということをたくさん聞いていたからです。そして、それは実際にその通りでした。食事や生活習慣、マナー、常識など日本での「普通」は、決して世界では通用しないことを実感しました。日本とは全く異なる環境での生活は、初めてのことで不安もたくさんありましたが、知りたい、体験したいと思う分、楽しさも倍増しました。

この研修を通じて、やはり一番印象的だったのはホームステイです。ホストファミリーとの談笑や、一緒にサウスバンクの美術館へ行ってホストファザーの解説を聞きながら楽しんだことが今でも忘れられません。さらにホストブラザーとルームメイトと家の近くの湖まで犬の散歩をしたり、映画を観たり、ホストブラザーの課題の手伝いをしたりと、とても濃くて楽しい時間を過ごしました。

今回の研修では、とても大切なことを学ぶことができました。何事にも恐れずに挑戦することの重要さです。ホストファミリー、現地校の生徒、CA や税関の職員に積極的に自分から話しかけてコミュニケーションを取り、会話を楽しむことができました。また、海を越えたつながりももつことができました。今でもホストファミリーや現地校で出会った仲間ともメッセージのやり取りを続けていて、まるでまだ対面で話しているかのような気分です。

このオーストラリア語学研修は最高に楽しいものでした。ステイ先がアットホームな雰囲気、いずれは住んでみたいとも感じました。入学して数か月でこんなにも素晴らしい経験ができたことを誇りに思います。飛行機から見下ろした景色は今でも忘れられず、地球の広さを改めて感じました。また、日本の酷暑に戻り、蒸し暑さを感じるたび、友人とオーストラリアに戻りたいと話しています。この仲間と将来また訪れたいです。そして、大人になったらお酒を交わしながら思い出話をしたいです。この貴重な経験を活かしてこれからも挑戦を続けていきます。



僕の学び

僕が今回オーストラリア語学研修に申し込んだのは、父の影響が大きいと思います。父は、実際に海外で暮らすことがどれほど大変であっても、それ以上に素晴らしい経験になると言っていました。僕はこの研修を通して、まさにその通りだと思いました。この10日間で本当にたくさんを経験し、自分自身が成長することができました。この研修で学んだことを二つ紹介したいと思います。

一つ目は、伝えようとする事の大切さです。初めてホストファミリーの家に到着したとき、僕は緊張してなかなか思い通りに話せませんでした。自分の言っている事が伝わらなかったらどうしよう、文法が間違っていたらどうしようと不安になり、話すことを恐れていました。しかし、オーストラリアでは相手の気持ちを察することが少ないため、言葉を発しないと何も伝わりませんでした。そこで、勇気を出して大袈裟にでも話すことにしました。文法が間違っていたことに後から気づき焦りましたが、ホストファミリーには僕が言いたかったことがしっかり伝わり、優しく返答してくれました。この瞬間、あらかじめ用意していた言葉ではなく、自分の思ったことをそのまま英語で話すことができたことにとっても嬉しく感じました。本当に大切だったのは正しい文法ではなく、相手に伝えようとする気持ちでした。文法をあまり気にせず、どんどん単語だけでも口にしていく事が大事だと思いました。

二つ目は、積極的に自分から行動することの大切さです。僕たちが訪れた現地校は、朝にみんなでスポーツをしたり、モーニングティーやランチの時間にグラウンドで遊んだりする非常に自由な学校でした。現地校の生徒たちはみんな生き生きとしていました。日本とのギャップに最初はなかなかついていけず、どのように話せば良いのかわからなかったのですが、バディと少しずつアニメなどの話をしていくうち、コミュニケーションの方法がわかってきました。まず大事なことは笑顔で楽しそうに話すということです。バディはとてもノリが良く、いつも笑顔でした。だから僕もそれを真似するように話してみると、会話バディツラツとなり、自分自身も明るくなっていきました。元気よく話すオーストラリアの方たちと過ごして、僕の性格も積極的になったと感じました。最後の方にはたくさん自分から話しかけることもできました。

このオーストラリア研修で本当に多くのことを学び、それらが僕を変えて成長させてく



れました。新たな発見や学び、喜び、笑いがたくさんあった最高の10日間でした。また、こんなに最高の日々を送ることができたのは、僕を支えてくれた家族、ISAの方々、そして愉快的な先生と仲間たちがいたからです。本当にありがとうございました。僕はこの研修で得たものをこれからも活かして頑張っていきます。

自分を変えるには

僕がこのオーストラリア研修に参加しようと思った理由は、自分の英語力を向上させたいと思ったからです。これまで文法ばかりを学んでいて、実際に話す経験がありませんでした。そこで、このオーストラリア語学研修は絶好の機会だと思い、応募しました。僕はこの10日間さまざまなことを学びました。その中でも厳選して三つの学びを紹介します。



一つ目は、色んなことにチャレンジする心を持つことの大切さです。オーストラリアに行く前、英語をうまく話せるかどうか不安でした。しかし、現地の先生方や西尾高校の仲間が自分を大いに助けてくれました。わからない単語を教えてくれたり、会話の手助けをしてくれたりしました。そのおかげで、英語で会話をすることができ、友達もたくさんできました。ここで気づいたのは、自分がオーストラリアの方たちと話したいと思う気持ちと、すぐにチャレンジすることが重要だということです。今までは何かをやりたいと思ってもすぐに実行できなかったのですが、今回の研修を通じて、「思い立ったらすぐに行動」できるようになりました。

二つ目は、出会いを大切にすることです。オーストラリアでは、ホストファミリーや現地の先生、現地の生徒などさまざまな人と出会いました。それぞれの人から多くのことを学びました。例えば、現地の生徒からチャレンジ精神を学び、彼らのおかげで日本でも積極的に挑戦できるようになりました。この経験から、出会いの重要性を実感しました。これからは新しく出会う人々との関係を大切にしていきたいと思います。

三つ目は、自分に自信をもつことです。オーストラリアに行く前、英語でのコミュニケーションやホームステイへの不安など、ネガティブなことを考えてしまいました。しかし、いざオーストラリアに行ってみると、その気持ちは一瞬にして消え去りました。英語を上手に話せなくても、現地の人たちとの会話を通じて理解を深めることができました。例えば、わからない単語があった時は「What does it mean?」や「I didn't catch that.」などのフレーズを使って、相手にわかりやすく説明してもらったり、ゆっくり言い直してもらったりしました。ホストマザーの言っていた通り、「Australian people are very kind!」でした。

最後に、僕が伝えたいことは「自分を変えるには環境を変えることだ!」ということです。僕はオーストラリアでの経験を通じて、異国の地で10日間も無事に過ごせた自信ができました。その結果、どんなことでもできると感じるようになりました。これからはこの自信を活かして、更に色々なことにチャレンジし、英語の勉強にも力を入れていきたいと思います。英語と直に触れ合うという貴重な経験をすることができたことは一生の財産なので、これを大切にしながらこの先も生活していきたいと思いました。

オーストラリアで培ったもの

私は、幼い頃に父の仕事の関係でアメリカに滞在していました。小学3年生で日本に帰国しましたが、洋楽を聴いたり、洋画を観たりすることが大好きで、英語は常に身近なものでした。しかし、日本に住んでいる限り、一日中英語を使って過ごすことはありません。また、食べ物や服装、ルール、文化、人の雰囲気など、アメリカとは何もかもが違います。帰国した当時は、いわゆる「カルチャーショック」を受けていました。しかし日本での生活に馴染むために「みんなに合わせていけない」という考えが強まり、気づけば何事にも受け身で、消極的な性格になっていました。自分でもこの変化を自覚していましたが、このままの自分には満足できず、オーストラリア語学研修がある西尾高校に入学し、もう一度海外に行って自分を変えたいと強く思いました。今回の研修で、それを実現させることができたと感じます。



オーストラリアは多文化共生社会で、さまざまな国の人々が暮らしています。実際、私のホストファミリーはフィジー出身で、イスラム教を信仰していました。牛肉と豚肉は料理に使わず、代わりに鶏肉をよく使っていました。このような異なる文化を実際に体験することができてよかったです。ホストファミリーとの会話を通じて、いろいろなことについて学ぶことができて嬉しかったです。

現地校では、日本の学校とは全く異なる雰囲気を感じました。日本では「まわりの目を気にする」人が多いのに対し、オーストラリアでは「自分らしさ」を誰もがさらけ出していると感じました。これはまさに身に付けたいと思っていた考え方でした。私は、この研修で何事においても積極的に行動し、恥ずかしがらずに挑戦すると心に誓いました。オーストラリアで「積極的に動いて迷ったらやっちゃう！」というマインドで過ごすようにした結果、数日後には「やりたいからやる！」という気持ちに変わっていました。そして最終日のお別れ



会で、自分の成長を実感しました。現地の英語の先生からスピーチを頼まれ、これはチャンスだと思いました。台本もない中でのスピーチでしたが、優しいバディが手伝ってくれ、緊張しながらもうまく話すことができて嬉しかったです。

この10日間にオーストラリアで出会った方々にはとても感謝しています。今回培った経験は必ず将来に生きてくると思っています。経験を活かすためにも、これからもずっと世界に目を向けて毎日を過ごしていきたいです。

自分から

私はオーストラリア語学研修に 10 日間参加しました。ホームステイや一人での買い物、現地の学校での体験など、今までの人生の中で初めての経験が多くありました。

その中でも、特に日本の生活との違いを大きく感じたのは「言葉」です。ホストファミリーは日本語を話さないため、日本語では簡単に伝えられることがうまく伝えられず、もどかしい思いをしたことが多くありました。自分の英語は間違っていないか、どのように表現するかを考えながら話すことが多かったですが、英語を積極的に使って伝えることが重要だと気づきました。自分の英語で話そうと努力をしたところ、ホストファミリーは笑顔で私の話を聞いてくれました。質問にはジェスチャーを交えて単語だけでも必ず返事をするように心がけました。夕食後に、学校での出来事や今まで行ったことのある場所などを語り合ったのが印象的です。コミュニケーションが段々とスムーズになり、ホームステイが楽しくなっていました。現地校では生徒二人一組のペアを組み、行動を共にしました。文法が間違っている、何度も聞き直してくれて嬉しかったです。最初の内は話しかけるのが怖かったけど、バディがたくさん質問してくれたので安心して話すことができました。

また、ホストファミリーはスリランカ出身の御夫婦で、わかりやすい英語を使ってゆっくりと話してくれました。ホストファザーは料理が得意で、毎回美味しい料理を作ってくれました。毎回私たちに嫌いなものはないか、どんな食べ物が好きなのか、たくさん聞いてくれました。オーストラリアの人気料理であるミートパイも作ってくれました。夕食時に見ていたテレビで出てきたものについて説明してくれました。人気のアニメや花火大会のことなど日本とは違って面白かったです。

今回の研修で、私は本当に多くのことを学びました。日本語に囲まれた生活から、知らないことばかりの環境に身を置くことは、想像以上に大変でしたが、自分のこれからの人生にとって大切なことばかりを経験しました。拙い英語でも優しく受け入れてくれたホストファミリーには感謝しかありません。言語や文化が違っても、自分から伝えようとする姿勢が重要であると学びました。同時に自分の無力さも感じました。伝えたいことをしっかり伝えられるように、これからも英語を学び続け、自分の将来に活かせるようにしていきたいです。



オーストラリア研修を通して

私がオーストラリア研修に応募した理由は、単に海外が好きだからではない。本当の理由、それは自分の住んでいる世界がもっと広いのだということを実際に自分の目で見てみたかったからである。私はすぐ目の前のことで追い詰められてしまうのが悩みだった。人間関係、テスト、塾、勉強、部活動…。高校生になるとやらなければならないことが増えたが、うまくいかない自分が悔しくてたまらなかった。しかし、父がよく言っていた「自分の周りばかりのことで気にするな。大きく見渡せば広い世界がある！」という言葉思い出し、成長のためにもこの研修は素晴らしいチャンスだと思った。

8月16日、私たちは台風の影響により成田で過ごすことになり気分が沈んだが、仲間と支え合いながらキャリーケースを運び、励まし合ったことで、困難に立ち向かっていく仲間との絆を深めることができた。翌日の17日、飛行機で8時間を経てオーストラリアに到着した。あたりを見渡すと、そこにはまるで日本とは全く違う景色が広がっていた。何もかもが大きい都市、豊かな自然、たくさんの動物、そして何より周りから聞こえてくるのは全て英語だという不思議な環境に、改めて海外にいるのだと実感した。

ホストファミリーやオーストラリアの人々との交流を通じて学んだことがいくつかある。一つ目は、みんながフレンドリーで明るく話しやすいということだ。私は初対面の人と話すのがあまり得意ではないが、オーストラリアンジョークなどのノリの良さに触れ、少しずつ自分も笑顔になれた。二つ目は、私がグダグダイングリッシュでもしっかりと耳を傾けてくれることだ。英語を書くことは得意でも話すのはなかなか難しく、間違っていないだろうかとためらってしまう。しかし、何もしなければ何も変わらないと自分に言い聞かせ、単語だけでも自分の意見を伝えるのが大切だと学んだ。私はホストファミリーと話すとき、沈黙してしまったこともあったが、頑張っって少しずつ話していくうちに、みんなで爆笑できるほどになり、会話を楽しめるようになった。英語を話すことが怖く感じなくなったのは大きな成長である。



この研修は信じられないほど短く感じた。そう感じたのは、オーストラリアについての知識を教えてくれたホストファザー、いつも私達を気にかけて支えてくれたホストマザー、仕事で忙しいにもかかわらずギターのコサートを開いてくれたホストブラザー、一緒に散歩に付き合ってくれたホストファミリーのペット、そして研修に関わってくださったすべての人々に感謝の気持ちでいっぱい。本当にありがとうございます。お別れはとても悲しかったが、この素晴らしい経験を活かして日本に戻ってもこの勇気や諦めない強い心を持ち続けて日々挑んでいきたい。

私の武器

私がこのオーストラリア語学研修に参加した理由は、ただ単に英語力を伸ばしたいだけではありませんでした。日本で英語を学んでいるものの、日本にいるかぎり限度があります。常に日本語を話しているので英会話での語彙力が不足していました。そこで英語を自分の武器にするためにと留学を考えました。オーストラリアの現地校の授業に参加できるので、実際の英語を学び、使えるようになりたいと思い参加を決めました。



私が待ち望んでいた現地校での授業では、西尾高校では体験できない中国語の授業や、オーストラリアの地理についての授業があり、とても楽しかったです。研修中は、一人につき一人バディが付き、そのバディと学校を散策したり、バディのグループ複数人でランチを食べたりと、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。日本とは違い、学年間の隔たりがなく、小さい子も私より年上の子も一緒になって遊ぶ様子に驚きました。

また、生徒と先生の距離も近く、生徒は困ったことがあればすぐに先生に質問していて、先生と内容の濃い会話をしていることにも気づきました。これらの日本の学校と異なる点は、現地の高校に行かないと体験できなかったのもとても嬉しかったです。

とても楽しみにしていたオーストラリアでの生活は、初めからうまくいっていたわけではありませんでした。初めての飛行機、初めてのホストファミリー、両親と離れて暮らす時間など、どれも私にとっては大きな壁でした。しかし、私が乗り越えることができたのは、一緒に日本からやってきた仲間の存在が大きかったです。毎朝会うたびに仲間たちがホームステイ先でどんなことをしたのか、悩みがあるのなら、一緒に解決しようと思いました。その結果、多くの壁を乗り越えることができ、満足できる研修となりました。

私はこの研修を通じて、武器を手に入れることが出来ました。それは適応能力です。10日間ネイティブの方と話すことができ、よく使うフレーズやスラング、学校では習わないけどよく使うものなど、生の英会話に重点を置くことができました。



この英語能力を身に付けられたのは、積極的に研修に参加したおかげです。この機会を自分のものにできたことは、これからの人生にとって大きなプラスになると思います。

留学最高！

私がこのオーストラリア語学研修に参加した理由は二つあります。一つ目は、自分を変えるきっかけが欲しかったからです。私は、人目を気にして発言ができない時があり、そんな自分に対してもどかしさを感じていました。そこで、この研修を通じて変われるかもしれないという思いで参加を決めました。現地校の生徒たちは、自分の意見を素直に発言するのが当たり前のように感じられ、最初は躊躇しましたが、段々と自分ももっと自分を出したいと思えるようになりました。



英語学習で一番苦労したことは、現地の人の英語が聞き取れなかったことです。聞き取れないことが恥ずかしくて、笑って流してしまう時もありました。しかし、この研修に参加する意味を考えた結果、そのままにしておく方が恥ずかしいと気づきました。正直に「ゆっくり話して欲しい」や、「もう一度話して」と伝えると、相手は嫌な顔一つせず、より分かりやすく話してくれました。そのおかげで、少しずつ聞き取れるようになりました。一番成長したと感じた出来事は、現地での課題で「日本の文化」について調査をしたことです。最初は友達と一緒にに行けば良いかと思っていましたが、友達は英語が上手で会話のスピードが速く、完全に取り残されてしまいました。このままではいけないと思い、次の休憩の時間は、一人で生徒たちに話しかけました。言葉以外にも絵を描いたり、ジェスチャーを使ったりして伝えよう伝えようとした結果、理解してもらえました。それは紛れもなく自分の努力が実った瞬間で、とても嬉しかったです。

二つ目は、視野を広げたかったからです。中学生の時、社会の授業で白豪主義について学習しましたが、教科書には「実施されていた」という事実しか記されておらず、国民は何を感じたのかは不明瞭でした。ホストマザーに「白豪主義が終わった今でも差別は残っていると思うか」と尋ねたところ、「皆口に出しては言わないけれど、目線で、肌の色や性別、年齢などの、差別は続いていると思う」と教えてくれました。現地校では、様々な国籍や人種の人でしたが、皆仲が良く、そのような差別は感じなかったのも、その言葉を聞いて驚きました。大人やお年寄りの世代には、まだその風潮が残っているのかもしれないと思いました。

今回の研修で、工夫して課題を解決し、何でも挑戦してみるととても貴重な経験ができました。困難なことに、立ち向かったことで、自分に自信ができました。自分の英語力はまだまだだと気付かされたので、これからの勉強のモチベーションにしていきたいと思います。



オーストラリア語学研修を通して

今回のオーストラリア語学研修は、私にとって初めての海外、初めての飛行機に乗る経験でした。しかし、台風の影響で集合が予定より大幅に早くなったり、搭乗予定の飛行機が飛ばなかったりと、不安を抱えての出発でした。

現地に到着してすぐに、ホストファミリーと対面しました。夜遅くの到着だったにもかかわらず、あたたかいご飯で迎えてくれました。毎日手作りのホットドッグやケバブなど、おいしい昼食を持たせてくれました。夕食は、毎日違うメニューを用意してくれ、様々な料理を食べることができました。私のホストファミリーのルーツはスリランカで、ご飯を手で食べたり、ホストファミリー同士では英語以外の言語で話していたりと、オーストラリアの多文化社会を実感しました。ホストファミリーとは、学校で習ったことを話したり、ホストファミリーが海外旅行に行った時の話を聞いたりしました。また、一緒に現地のテレビ番組を見て英語を学ぶ機会を設けてくれました。私のつたない英語にも耳を傾けてくれ、とても充実した環境に身を置けたことに感謝しています。



現地の学校に通ってみて、自由な授業スタイルや高校生から小学生までの様々な学年が同じ学校に通う教育システムが印象

ホストファミリーと

に残っています。好きな本のキャラクターに仮装して登校できるイベントでは、生徒たちだけでなく先生たちもユニークな衣装で授業をしており、自由で楽しそうな学校生活が魅力的でした。英語の授業では、オーストラリアのスラングや、覚えておくと便利なワードをたくさん習い、オーストラリアの先住民や独自の進化を遂げた生態系について、クイズ形式で楽しく学ぶことができました。バディが受講していたドラマの授業では、自作のストーリーを考えてグループで発表するという、日本にはない授業を見学することができました。また、数学の授業では英語で書かれた文章題にチャレンジし、英語を応用して問題を解くことが難しかったです。現地の生徒たちに日本文化を紹介する機会があり、鶴の折り方を教えました。昼食をみんなで食べたり、私たちの質問に親身になって答えてくれたりと、フレンドリーであたたかい雰囲気の中で学校生活を送ることができました。

ゴールドコーストでは、長い砂浜と広大な海、高層ビルのコントラストが圧巻でした。動物園には、コアラやカンガルー、タスマニアデビルなど、オーストラリア独自の動物たちを見て知ることができました。最後に訪れた美術館では、壁一面に描かれたアボリジナルアートを見ました。また、ピカソの展示までの道順を学芸員に質問し、私たちの英語が通じたことが嬉しかったです。

このオーストラリア語学研修を通して、英語での授業や買い物、日常生活の経験をすることができ、英会話スキルの向上を感じました。さらに、現地で出会った人々はとてもフレンドリーで、他の文化を持つ私たちを優しく受け入れてくれました。この姿勢こそが、多文化国家がうまく回っている秘訣なのだと感じました。多様な価値観に触れ、今後の私の人生をより豊かにする、特別な経験になりました。

素敵な出会い

私は英語や外国の文化に興味があったので、この夏の語学研修をとっても楽しみにしていました。しかし、初めは英語を話したり聞いたりする事ができるのか、バディやホストファミリーとコミュニケーションを取れるのか、現地の学校で自分の意見をしっかりと伝えられるのか、さらには「日本人だから」と偏見を持たれるのではないかと、不安がありました。



ホストファミリーとの写真

現地の学校で、質問の意味が理解できないとき、私は「どういう意味ですか?」としつこいくらい何度も尋ねたことがありました。しかし、嫌な顔一つせずに、私が理解できるように簡単な英語に直して説明してくれました。また、授業が全て英語だったため、わからない単語を電子辞書で調べたり、メモを取ったりしていると、近くに座っていた子達が助けってくれたり、教えてくれたりしました。優しくフレンドリーな子ばかりだったので、失敗を恐れずにたくさん話してみようと思えました。ホームステイ先でも、ホストマザーやホストファーザーとたくさんの会話ができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。

オーストラリアの学校は、20人程度の少人数クラスでした。授業では、先生が生徒に質問をすると、すぐにあちこちから意見が飛び交い、静かな時間がありませんでした。みんな間違えを恐れず、堂々と自分の意見を主張していました。私は自分の意見をまとめて言葉にするのに時間がかかり、なかなか意見を言う事ができませんでした。日本では、手を挙げて先生に指名されないと、自分の意見をみんなに伝える機会は少ないと感じます。オーストラリアの授業は型にはまらず自由な雰囲気、とても楽しそうでした。私もこれからは自分の意見をしっかりと言葉にして伝えられるようになりたいと思いました。

一番驚いた事は、オーストラリアの高校にさまざまな国籍の生徒がいることです。また、私のホストファミリーには1歳の息子がおり、学校帰りに、ホストマザーと一緒に保育園へお迎えに行きました。そこにもさまざまな国籍の子達が通っていました。オーストラリアでは、国籍や文化などが異なる人たちと小さい頃から関わる事が当たり前で、それが広い視野を持てるきっかけになっていると感じました。だからこそ、偏見を持たず誰にでも優しく接し、フレンドリーなのだと思います。

この語学研修を通して、私は言語だけでなく、文化やコミュニケーションの取り方についても多くのことを学ぶことができました。国によって、考えは違います。日本では普通とされることがオーストラリアではそうでない場合もあります。それでも、お互いの文化を尊重しながらコミュニケーションを取ることができます。日本もオーストラリアに、少しずつ近づいていけるとよいな、と思います。たった1週間でしたが、毎日が真新しく、新鮮で、わくわくしながら過ごしました。高校生のうちにさまざまな文化に触れ、英語を学び、視野を広げたことは、私にとって大切な経験です。この経験を生かし、これからの進路を考える手掛かりにしたいと思います。

オーストラリア研修最高！

僕がオーストラリア研修を通して学んだことは主に三つあります。

一つ目は、「くよくよしていても仕方ない」ということです。オーストラリア初日、初めてホストファミリーと話す場面で、僕は完璧な英語で話そうとしました。しかし、当然ながら完璧に話すことができるはずもなく、なかなか伝わらず、あまり喋れなくなってしまいました。それでも、「数日しかないこの留学をこんなふうには終わらせたくない」という思いと、片言でも楽しそうにホストファミリーと喋っている先輩の姿を見て、「伝わらなくてもいいから喋ろう」と決心しました。そこで、完璧に喋ろうとするのはやめ、単語を一つずつ並べたり、ジェスチャーなどで表現したりしました。すると、ホストファミリーも理解してくれるようになり、僕自身も「もっと伝えたい」と思えるようになり、それからたくさん話せるようになりました。海外では自分から変わろうとしなければ、何もできなくなってしまうと思います。僕はグループで留学生としてオーストラリアに行きましたが、もし個人で行っていたら、何もできず内向的な自分を変えられなかったかもしれません。ただ、理由はどうであれ、自分を変えられたのは事実です。これからも変わることができた自分を継続し、今後の海外挑戦にも活かしていきたいと思います。

二つ目は、「親が子を思う気持ちは海外の家庭も日本と変わらない」ということです。これは当たり前かもしれませんが、僕にとってはとても驚きでした。ホストマザーのスーザンとその息子のヘンドリクスと三人で話す機会がありました。ヘンドリクスに将来の夢を尋ねたところ、まだ決まっていないとのことだったので、スーザンに「ヘンドリクスに何になって欲しいか」尋ねてみました。するとスーザンは「ヘンドリクスが幸せならなんでもいい。危ない仕事は嫌だけど」と答えました。僕は、海外は日本と考え方や価値観が大きく異なり、子どもに対する思いも違うのではないかと勝手に想像していました。実際に話をしなければ海外の人々の感じ方や日本との相違点、共通点を知らないままだったので、この機会があって本当によかったです。

三つ目は、「海外留学は人の人生を変えることができる」ということです。もし今回オーストラリアに行っていなかったら、この歳でスーザンとヘンドリクスに会うことはなかっただろうし、オーストラリアの学校で過ごすこともなかったはずです。この研修のおかげで、本来なら関わるはずのなかったホストファミリーの思い出の中に僕がいて、僕自身の思い出の中にも彼らがいます。ホストファミリーの人生に関わり、その記憶の一部になれたことを、僕は誇りに思います。研修を通して、知らなかったことも知れたし、新たな気づきもありました。それに、現地で同い年の人たちと関わり、共通の話題で盛り上がり友達になることもできました。これからも交流を続け、次の挑戦に繋げていきたいです。ありがとう。



最高のホストファミリーとストーリー・ブリッジの前で

オーストラリア語学研修を通して

僕は、今回のオーストラリア語学研修を通して、大きく三つのことを学びました。

一つ目は、語学研修で、英語をのぼすためには、ホストファミリーの質問にただ答えるのではなく、自分で話す内容や話したいことを、下手でも間違っている英語にして、率先して自分からホストファミリーと話すことが大切だということです。初めは緊張してホストファミリーの質問から始まる



ファミリー集合写真

る会話ばかりでした。しかし、必死に自分から話をして、お互い楽しい雰囲気を作ろうとしているルームメイトの姿を見て、自分もがんばらなきゃと思うことが出来ました。それから、文法が間違っていようが、単語が間違っていようがまずはホストファミリーに自分から英語で話すことを意識しました。そのことを意識し始めたら次第に、自分から話しかけることに慣れ、最終的にはまるで家族のように楽しく会話ができるようになりました。言いたいことをうまく英語に表せなくても、ホストファミリーが必死に理解しようと努力してくれました。そして間違いを正してくれて、自分の英語力向上につながりました。

二つ目は、言葉が違っていても言いたいことは伝わるといことです。意味を伝えるためには、言葉だけでなく、表情や身振り手振りなどさまざまな伝え方があります。今回の語学研修でもその人の伝えようと話していることが分からなくても、その人の目や身振り手振り、表情を見て、言いたいこと、感じていることを知ることが出来ました。初めはネイティブがやっている表情や身振りをしているのは、あまり意味のないものだと思っていたけど、この語学研修で実際に海外に行ってみて、コミュニケーションは言葉だけでは無いということを知りました。これらを活かしてこれから英語を話す時は、言葉以外の部分も意識してコミュニケーションを発展させていきたいです。

三つ目は、初対面の人と初めて話す時、その時の表情や声のトーン、話し方次第でこれから相手が自分にどのように接するかが変わるということです。この語学研修でさまざまな人と関わって、現地のほとんどの人が、笑顔で握手を求めてきたり、身振り手振りを大きくしたりしてしていました。それを受けて、自分をもっとこの人と話したいと思ったり、興味を示したりするようになりました。

今回の語学研修を通して英語だけではなく、人生を通してずっと大切なことを学ぶことが出来ました。そして、日本ではなく海外へ行ったからこそ学べたことも多くありました。そして、何よりもそれを学ぶ過程がとても楽しかったです。本当にありがとうございました。

オーストラリア研修で得たもの

私は英語力の向上と、日本とは異なる言語や文化を学ぶことで自分の視野を広げるために、この語学研修に参加しました。応募してみたものの、出発前は自分の英語が海外で通じるのかと不安で、楽しみな気持ちと不安な気持ちが入り混じった複雑な気持ちで過ごしていました。しかし、実際に現地へ行ってみたらその心配は必要ないとすぐに感じるよう



公園でホストブラザーと

になりました。なぜなら自分がこの語学研修に参加した目的を今一度考え、「純粋にコミュニケーションを楽しみたい」と思って行動すれば、出発前に持っている英語のスキルは関係なく、自分から関わろうとする気持ち次第で大きく成長できると気付いたからです。

初めはホストファミリーが言った言葉が分からず、何度も聞き直したり、自分から会話に入れなかったりしました。しかし、ホストファミリーや現地校のバディは、私が何度聞き直しても丁寧に教えてくれ、どんどん話しかけてくれました。そんな現地の方々の温かさに毎日触れるうちに、不安もなくなり、「間違えてもいいから自分からたくさん話そう」と積極的に became.

現地での生活は日本とはまるで違いました。まず、家では子供から大人まで早寝早起きが当たり前で、自分のことは自分で行います。日本での私は朝早く起きるのが苦手で、皿洗いや掃除なども親に頼ってばかりでした。そのため初めはこの生活スタイルに慣れず大変に思うこともありました。しかし、朝早く起きて、ゆったりと温かい雰囲気の中でホストファミリーと過ごす時間はとても楽しく、1日を明るい気持ちで始められ、充実した毎日を過ごすことができました。

学校では午前中に「モーニングティータイム」という日本にはない小休憩の時間がありました。この時間には学校内の売店で軽食を買って食べたり、外でスポーツをして体を動かしたりと自由に過ごすことができました。この時間のおかげで、その後の授業にも集中して取り組みました。日本の学校にもこのような時間があったらいいなと思います。

情報の授業では、生徒はノートパソコンをずっと使っていました。ただ先生の説明を聞いて問題を解くのではなく、友達同士で協力し合いながらレポートやエッセイを書くなど、生徒の自主性に任せたものが多く見られました。また、世界に目を向け、問題に直面した時にどのように解決するかを考えるなど、グローバルな視点での教育が盛んに行われていました。

現地での体験を通して、今までの私がテレビやインターネットで見た限られた情報だけで無意識のうちに国全体へ間違った偏見をもっていたと気付くことができました。

今の社会は何でもインターネットで調べられる時代です。しかし、そんな時代だからこそ、自分で現地に足を運び、自分の目で確かめることの大切さを今回の語学研修で学ぶことができました。これから先、迷ったり悩んだりした時にこの語学研修での経験が私を動かす原動力になると確信しています。

大きな経験

私が今回のオーストラリア研修に参加することを決めた理由は、自分の将来について考えるきっかけを作り、自分の視野を広げたいと思ったからです。初めての海外だったため、ホストファミリーとうまくいかなかったらどうしようと、不安で仕方ありませんでした。しかし、せっかくいただいた機会なのだから、自分自身を変えようと意気込み、この研修に臨みました。

まず、私が意識したのはホストファミリーや現地の方との会話の仕方です。個人的な意見ですが、多くの日本人は良い意味でも悪い意味でも謙虚で、相手に気を遣う方が多いと考えています。私も研修前は自分の意見を伝えたら相手に鬱陶しがられるのではないかとネガティブに考えていました。しかし、行き先は日本とは異なる文化を持つオーストラリアなんだと吹っ切って、拙い英語ながらも、自分が思ったこと、感じたことをとにかくしつこいくらい必死に伝えました。ホストファミリーはそんな私の話を嫌々聞くのではなく、しっかりと耳を傾けてくれました。そのおかげで、間違えてしまうことが恥ずかしいと思わなくなり、自分で伝えること、受け身にならないことの大切さを学びました。一方で、自分の英語力の限界を痛感しました。これはとても大切な経験だと思います。この気づきをきっかけに、英語学習を頑張ろうと強く思いました。



ホストファミリーとの写真

また、話す上で感謝の気持ちを伝えることの重要性を再確認することができました。ホストファミリーが色々な場所に連れて行ってくれたり、ご飯を作ってくれたり、学校でバディが優しく教えてくれることなど、どれも当たり前ではなく、その方たちがいるからこそ自分ができていることがたくさんあります。お世話になった方たちに笑顔で感謝の気持ちを伝えることは、たとえ英語がうまく話せなくても伝わります。

印象深かった一つの例として、オーストラリアの方々は見知らぬ人にも、「元気？」や「いい一日を」と声をかける文化があることです。これらのことから英語を学ぶだけではなく、人としても多くのことを学びました。それによりたくさんの人と笑顔で話せて幸せな気持ちでいっぱいになりました。最後の日にはオーストラリアで出会った人と別れてしまうことが辛く、日本に戻りたくないと思うくらい、本当に多くの思い出ができました。ここでは書ききれないほど多すぎるくらいの温かさや学びを経験しました。

今回の研修では先生方、両親、ISAの方々、ホストファミリーなど多くの方々の力に支えられて、多くの経験を得ることができました。自分だけではこんな素晴らしい経験を高校生のうちにすることはできなかったと思います。周りの支えてくださる方に感謝を伝え、日々努力をして、いつか再びオーストラリアを訪れたいです。約10日という短い期間ながらも、私の人生にとってもっとも濃い10日間ではなかったのだろうかと思います。ありがとう、オーストラリア大好き！

研修で学んだこと

このオーストリア語学研修は私にとっての初めての海外、初めてのホームステイでした。初めてのことばかりで不安が大きかったですが、振り返ってみると、とても楽しく、いい経験となりました。

オーストラリアに行く前は仲間たちと「たくさん英語を使おう」、と意気込んでいました。しかし、いざホストファミリーと対面すると、英語が聞き取れなかったり、言いたいことが思うように言葉にできなかったりして、焦りからなかなか話すことが出来ませんでした。現地の学校でも自分から話しかけることが出来なくなっていました。そんな時に、一緒に行動することになった日本の仲間が未熟な英語でもとりあえず話しかけてみよう、というスタンスで話しかけては楽しそうに会話しているのを見て、尊敬するとともにこのままではいけないという気持ちが生まれました。そこで空き時間にメモ帳に言いたいことや質問をたくさん書いておいて、それを見ながら話しかけてみました。するとバディは色々答えてくれて、分からないところを聞き返しても嫌な顔ひとつしませんでした。学校が終わるころには自然に会話ができるようになりました。その後迎えに来てくれたホストファミリーにも、自分の英語のレベルを気にせず、学校であった出来事を話したり質問したり、分からない単語を聞き返したりすることで、今までよりも長く会話が続くようになりました。私は、間違ってもいいから、とにかく話してみることの大切さを実感しました。



ホストファミリーと焼きマシュマロ

現地の学校は日本と大きく違い、先生からの一方的な講義のような授業は少なく、各自でレポートを書いたり、ディスカッションを通して意見をまとめたりする内容が多かったです。また授業に集中するために場所を移動したり、他の人に意見を聞くために席を立ったり、自由に行動することが許されているのが印象的でした。

今回の研修を通して、英語を使って外国の人とコミュニケーションをとる楽しさを知ることができました。一方で、自分の英語力の不足を痛感する場面も多くありました。研修中に何度も、自分が伝えたいことが上手く伝えられない悔しさを味わいました。しかし、上手に英語を話すことよりも、「伝えたい」という気持ちをもって挑戦してみるということが大切だということに気づくことが出来ました。

これからは、今回知った自分の弱点であるリスニングとスピーキングを伸ばしていきながら、もっと自分の気持ちをよく伝えられるように努力していきたいと思います。

はじめての海外

僕は将来英語を使う職業につきたいと考えています。しかし、これまで海外に行ったことがなかったため、早いうちに一度行ってみたいと思い、オーストラリア語学研修に参加しました。



ブリスベンの夜景

僕がお世話になったホストファミリーは家の中では基本的に自由にさせてくれて居心地がよかったです。犬を飼っていた家だったので日々癒されながら快適に生活することができました。ただし、お風呂に入るのが夜ではなく翌朝だったり、夜早く寝る生活スタイルだったり、文化の違いを感じることもありました。さらに朝ごはんは日本ではお米やパンが王道なのに対して、オーストラリアでは毎朝必ずシリアルが出てくるという違いもありました。

学校では、現地の生徒とバディを組んで実際の授業を受けました。英語で上手く話せるか心配していましたが、バディが僕のことを考えて優しい英語で話しかけてくれ、他の人も同じように話しかけてくれて、仲良くなることができました。授業は日本でも見られるような授業もあったけれども、中国語の授業などもとることができるらしいので、とても面白いと思いました。始業前後やお昼放課は、バスケットコートでバスケやバレーをして過ごし、ここでも新しい友達を作ることができました。学校の人はオーストラリア人が大半のイメージがあったけれども、実際はさまざまな国の出身の生徒がいて驚きでした。

日本の生徒と訪れたゴールドコーストでは、とても綺麗なビーチや、近くには時間内では回りきれないほどの商店街があり、もっと長くいたかったなと思いました。また動物園にも訪れました。ワニやカンガルー、エミューなど初めて見る動物がたくさんいました。カンガルーはものすごい数がいて、まるで大きくなった犬のようで可愛かったです。コアラも抱っこしてみたかったけれど、できなかったので、またいつかできたらいいなと思っています。

最後の日の夜はファミリーとブリスベンの中心部のレストランに行きました。念願のフィッシュ&チップスを食べることができました。日本のご飯とは違うジャンキーで量もたくさん料理に大満足でした。そして最終日はお世話になったホストファミリーとさよならをしました。一週間ずっとお世話になったので、お別れの時は寂しかったです。その後空港に向かい、お土産を少しプラスして買って飛行機に乗りました。10時間くらいだったと思うけれども、機内食も美味しかったし、映画が見られたりしたのであつという間でした。

英語の能力は言うほど上がりはしなかったけれども、海外の文化に触れたり、現地の人と話したりするという事はなかなかできない体験でした。オーストラリア語学研修に参加してよかったなと改めて感じました。

10日の交流を通して

私は、この10日間のオーストラリア留学が自分に大きな変化を与えてくれたと感じています。オーストラリアにはさまざまな国の出身者が集まっており、英語という共通言語を通じて交流したことは、滅多にない貴重な体験でした。その中でも印象的だった出来事をいくつか紹介します。

まず、オーストラリアでは、もちろん頼めば親切に対応してくれますが、日本のように相手が気を遣ってくれるのを待っていても何も起きません。私自身、最初は自分から話しかけることができませんでした。しかし、留学が終わりに近づくにつれて、焦りを感じ、自分から話しかけるように努め、多くの人と仲良くなることができました。

また、オーストラリアでは日本の文化（アニメやゲームなど）に興味を持つ人が多く、私が好きな作品について共通の話題を持つ人もたくさんいました。そのような人たちと英語を通じて話し合えた時、自分の英語でも相手に伝わるのだと実感し、大きな自信につながりました。

ゴールドコーストでは、ビーチや動物園、大学を訪れました。特に「ワイルドライフサンクチュアリ」という動物園では、オーストラリア特有の動物に出会うことができました。中でもカンガルーが意外と大人しく、日本でいう奈良の鹿のようにくつろいでいたのが印象的でした。また、飼育員さんと英語で会話を交わすなど貴重な体験もできました。さらに、サウスバンクの食事

で、支払いに硬貨を使ってみました。これらの小さなことにも、自分の成長を感じました。私たちはブリスベンクリスチャンカレッジ(BCC)という学校に通い、バディと1対1で授業を受けました。最も印象的だったのは、現地の生徒たちが積極的に先生に意見を言っていたことです。失敗を恐れずに発言している姿を尊敬するとともに、私もそんなふうに成長したいと思いました。

この留学を通して学んだことは数え切れないほどありますが、私にとって最も大きな学びは「自分の思ったことを我慢せずに発信すること」、つまり「積極的に挑戦すること」の大切さです。この10日間で、引っ込み思案だった自分が少しずつ殻を破ることができました。これからもこの経験を生かし、もっと自分自身を発信していきたいと思います。



たまたま見つけた大きくてオシャレな椅子です！



同行して下さったシェーン先生によるといつもこれくらい荒いらしく、驚きました。

10 日間の学び

私が今回オーストラリア研修に応募した理由は、姉や友人の姿を見て、高校生のうち在海外に行くことが今後の人生にとって大きなプラスになると考えたからです。私は今まで自分の意思をはっきりと伝えることが苦手でした。特に高校に入ってから人の目を気にすることが多くなり、周りに合わせることもしばしばありました。そんな自分を変えたい、いろいろなことに挑戦したいと思っていた時にオーストラリア研修の募集が目に入りました。日本とは大きく違う海外という場所でもっといい自分になりたいと思い、勇気を出して応募しました。実際にオーストラリアでは、自分の意思を相手にはっきり伝えなければいけない場面がたくさんありました。最初はバディやホストファミリーから「どちらがいい」と聞かれても困ってしまうことが多かったのですが、勇気を出して自分の意見を言ってみると、みんな嫌な顔ひとつせず受け入れてくれました。そこから、知っている単語を繋げたり、調べたりして自分の意思を伝えようと奮闘すると、オーストラリアの人々も一生懸命聞こうとしてくれました。研修に参加する前は、大して英語が得意ではなかったのが不安が沢山ありました。しかし、分からなくても、伝わらなくても、自分の意思を伝えようとすることが大事であり、怖がって何も言わなければ何も変わらないと学びました。

この研修で大きな存在だったのはホストファミリーと西尾高校の生徒の存在です。ホストファミリーはホストマザーとホストファザー、そして3匹の犬でした。彼らは私たちに本当の家族のように優しく接してくれました。毎日“Where would you like to go?” “Girls, how was today?”とたくさん質問をしてくれました。ホストファミリーが怖かったらどうしようと思っていましたが、私はこのホストファミリーに出会えて幸せでした。一緒に船に乗ったり、焚き火を囲んで紅茶を飲んだりした思い出は一生忘れたくないです。また、同級生も後輩もいつも笑顔で明るく話してくれて、飛行機や観光の日程が大幅に変更になるような台風の時でも楽しく過ごすことができました。彼らから受けた刺激も、この研修の学びの一つになったと思います。

さらに、オーストラリアで過ごすことは意外にも日本の良さを知ることに繋がりました。例えば、料理の繊細な味付けや、物価の安さ、トイレのぬくもりなど、普段は当たり前だと思っていたことのありがたみに気づきました。

今回の旅では、この報告書に書ききれないほどたくさんの経験をし、たくさんの刺激を受けることができました。

勇気を出して応募して本当に良かったです。オーストラリアに関わったすべての人々に感謝し、この経験をこのままで終わらせないようにこれからも努力を続けたいと思います。オーストラリア、大好きです。



ホストファミリーとの写真

勇気が大事！

私は、異国でのホームステイに興味があったこと、そして今の自分の視野や考え方を広げたことから、オーストラリア研修に申し込みました。

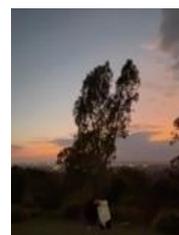
オーストラリアについて調べるうちにとても楽しみになってゆく反面、英語力や学習面、コミュニケーション能力への不安や、心配性な性格、初めてのホームステイへの緊張もありました。それでも、参加できて本当によかったと思っています。

まず、オーストラリアの学校についてです。現地の学校では、スポーツや日本の文化を通じて会話して、仲良くなれたのが嬉しかったです。友達と一緒に、放課にたくさんの人に話しかけたり、すれ違う人に手を振ったりしました。「運動と数学と笑顔は世界共通だ」と感じました。ジェスチャーや知っている単語を駆使しながら、一生懸命コミュニケーションを取ったことはよい思い出です。また異国という地で、西尾高校のみんなとも仲良くなれたのも嬉しかったです。

しかし、楽しい反面、スマホを使わないと、会話中に言いたいことを十分に伝えられなかったことが悔しかったです。これからは英語の勉強を単なる暗記にだけにせず、コミュニケーションを意識して学習したいと思います。また、放課にパプアニューギニアから来た生徒が、戦争について問いかけてきた場面がありました。その時、少し怖く感じてしまい、自分の考えをうまく伝えることができませんでした。今思えば、落ち着いて自分の考えを英語で伝えることができたならよかったと思います。この経験を通じて、文化や考え方の違い、そして学びの大切さを再認識しました。帰国後もオーストラリアの友達と連絡をとることができ、現地の学校での貴重な体験に感謝しています。

次に、ホームステイについてです。私を受け入れてくれたホストファミリーのご夫婦はとても優しく、楽しい思い出をたくさん作って下さいました。特に学んだことは、自分の意見や思ったことを上手に伝えられなくても、自分なりに伝えることが大事だということです。行きたい場所や好きなことをたくさん話したことで、ホストマザーは、私たちが美しい景色を好きだと思い、ショッピングに行く前に綺麗な山の景色を見せてくれたり、最終日には夜景が綺麗な川に浮かぶ船に連れていってくれたりしました。ホストファミリーは私が何か伝えようとする、真剣に話を聞いてくれました。伝わらない時は、伝わるまで一緒に会話を続けてくれる姿勢が心強かったです。私は、自分の考えを思うように上手に伝えられないと諦めてしまうことがよくありますが、今回の経験を活かして、積極的に人と関わって行きたいと思っています。

オーストラリアには日本を好きな方が多く、店員さんや現地の学校のみんな、ガイドの方々、関わった人々がみな優しくてオーストラリアが大好きになりました。素敵な機会をくださったみなさんに感謝しています。本当にありがとうございました！



夜景がきれいな山



カンガルーの子

オーストラリア語学研修での思い出

僕がオーストラリア語学研修に参加した理由は、これからの社会で必要とされるグローバルな視点を得ることや、異なる文化や言語を持つ人たちとどのようにコミュニケーションを取るかを学ぶためです。ホームステイという初めての体験に緊張していましたが、ホストファミリーが親切に接してくれたり、一緒にゲームをしてくれたりしたおかげで、楽しい日々を過ごすことができました。また、食文化の違いも感じることができました。例えば、日本に比べて肉料理が多く、野菜が少ない食事が多かったです。

オーストラリアでの生活では、自分が伝えたいことをうまく表現できない場面が何度もありました。例えば、学校で次のバディとの授業はどこで何をするのかわからなかったり、授業の一環でさまざまな年齢の人たちと交流したときに、皆が何を話しているのかわからなかったりすることがありました。しかし、そこで諦めるのではなく、ジェスチャーを使ったり試行錯誤を重ねたりして、自分の気持ちを相手に伝えようと努力しました。また、相手がわからない表現や単語を何度も教えてくれることで、自分の知識や語彙を増やしていく意欲が湧きました。こうして、自分の気持ちを伝えることの大切さや、相手の気持ちを理解しようとすることの重要性を学ぶことができました。

現地の学校では、まず授業がすべてパソコンで行われていることに驚きました。バディと一緒に授業を受ける中で、タイピングが上手ではない自分には、こうした技術も身につける必要があると感じました。また、バディが積極的に声をかけてくれたおかげで、自分から話しかける機会も増えたと実感しています。

この研修を通して、僕は自分の考えを伝え、相手を理解しようとする勇気を得ることができました。この経験を通じて、人として一步成長できたと感じています。西尾高校では留学生を受け入れているので、これからも積極的にコミュニケーションを取っていきたいと思います。



ゴールドコースト



ホストマザーとツーショット